



かけがえのない命を守るためには、  
どうすればいいのだろうか。

# 9 ハゲワシと少女



学びの  
道しるべ



- 1 写真を撮影したあと、カーターさんが泣き続けていたのはなぜだろう。
- 2 カーターさんの行動について、あなたはと思うだろうか。
- 3 「かけがえのない命を守る」ということは、どういうことだろう。

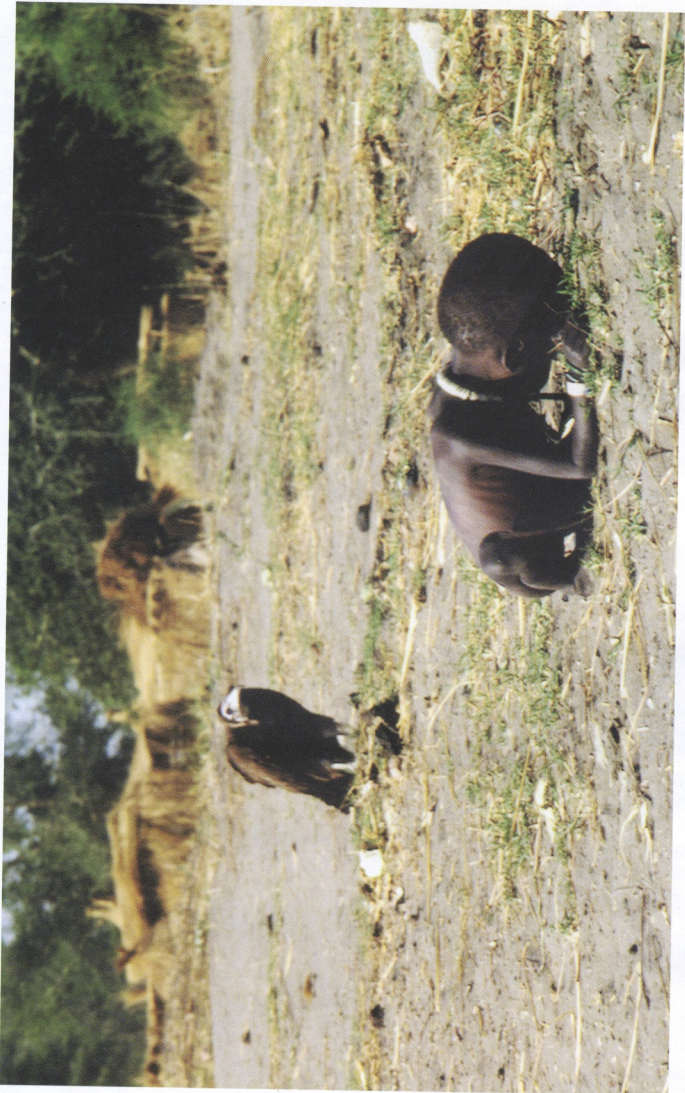
とされていました。しかし、厳しい取材制限があり、スーダンの飢餓地帯に入ったカメラマンは、それまでほとんどいませんでした。

一九九三年三月、スーダン南部のアヨドという村に入ったカーターさんは、食料を求めて集まってくる避難民の人々を撮影していました。国連などが支援物資を届けている食料配給センターの近くで、小さな女の子がうずくまっているのを見えました。そして、そのすぐ近くにハゲワシが舞い降りてきて、女の子に近づいていったのです。

カーターさんは数枚撮影してから、声をあげてハゲワシを追い払いました。少女は、配給センターの方へよろよろと歩きだしました。

撮影したあと、あまりの衝撃に、カーターさんは近くの木の下に座り込んでしまいました。たばこを一服吸いました。涙がこみあげてきました。立ち上がれず声を出してしばらく泣き続けていました。

文・編集委員会



前のページの写真を見て、あなたはどんなことを感じましたか。

ハゲワシが、餓死寸前の少女を狙っています。

これは、報道カメラマンのケビン・カーターさんが、アフリカのスーダンで撮影したものです。この写真は、一九九四（平成六）年に、ピューリッツァー賞（アメリカで、報道や文学などの分野で優れた業績に与えられる賞）を受賞しました。

当時、スーダンでは、人種・宗教上の対立に端を発した政府と反政府ゲリラとの内戦が十年以上も続いていました。戦闘に巻き込まれて多くの人々が死亡し、故郷を追われて避難民となる人も多数いました。また、南部の地域では、一九八八（昭和六十三）年に干ばつが起こり、食料が不足して数十万人が飢えて死んだ